

令和6年度 指導目標達成状況と次年度への取組

愛媛県立北宇高等学校
学校番号 43

教育方針	教育基本法に基づき、人格の完成を目指し平和的な国家社会の有為な形成者として必要な資質を養い、国際的視野を持った心身ともに健康な国民を育成する。	重点目標	豊かな人間力（徳・知・体）を育む教育の実践 きみだけの北辰（ポラリス）をつかみ、きみだけの魅来を描こう
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R5	R6	次年度の改善方策
教育全般	指導目標	豊かな人間力（徳・知・体）を育む教育の実践	B	○学校評価アンケートは、昨年と比較し、生徒・保護者・教職員とも、ほぼ同様の結果となっている。 ・保護者対象 3.8(3.8) ・生徒対象 4.1(4.1) 1年生 4.1(4.0) 2年生 4.1(4.2) 3年生 4.1(4.2) ・教員対象 4.0(4.0) ※（ ）：昨年度	(保護者対象) ① 学校は、配布物などにより、教育方針を伝えてくれる。 ② 子どもは、充実した学校生活を送っている。 (生徒対象) ① 学校生活が充実している。 (教員対象) ① 本年度の教育目標や数値目標を理解し、目標達成に努めている。 ② 本校の特色を生かした教育活動に努めている。 ③ 管理職は、リーダーシップを発揮している。 ④ 職員会議は、円滑に運営され、協議の内容が学校運営に生かされている。 ⑤ 校務分掌は、効果的に組織され、有効に機能している。 ⑥ 教職員間は、コミュニケーションがよく図られ、連携協力ができている。 ⑦ 教職員は、サービスの厳正に努めている。 ⑧ 校外研修の成果は、他の教職員に伝達され、本校の教育活動に生かされている。 ⑨ 公文書の処理・管理は、適切に行われている。 ⑩ 教育活動全般にわたる評価は、学校経営に生かされ、次年度への改善がなされている。	3.8	3.8	○意欲的な学習活動や充実した学校生活を送れるための指導を推進する。 今後も継続して、 ①生徒の実態に応じた授業と課題の工夫により、学習内容の定着を図る。 ②生徒指導の推進と保護者との連携を強化する。 ③学年・クラス全体の雰囲気作り及び面談などの個別フォローといった良い環境作りに努める。 ④教員全体で意識を共有し、チームとして生徒指導を行う。 ○学校全体として、現状分析を確実にを行い、適切な具体的目標を設定する。教職員も、目標チャレンジシートを利用し、それに応じた適切な目標を設定し、更なる指導力の向上を目指す。 ○教育活動の改善に向けた提言を積極的に取り入れ、参画意識を持って取り組める組織作りに努める。
	本年度の重点努力目標	きみだけの北辰（ポラリス）をつかみ、きみだけの魅来を描こう		○数値目標が達成されていない項目もあり、現状を分析し、次年度に向けて改善を図る必要がある。 ○重点努力目標をもとに、教職員がそれぞれ年間目標を立てて、自己評価等を行っている。 (9月中旬評価、3月最終評価)		4.1	4.1	

※(1)評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）
(2)アンケート結果の数値は5段階（5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R 5	R 6	次年度の改善方策
生徒指導	基本的 生活習慣 の定着	・ 明るいあいさつ 100%	B	○毎月、身だしなみ指導を実施した。 ○あいさつについては、教職員が率先して行うとともに、風紀委員の生徒が週に一度、校門前であいさつ運動を行った。 また、生徒会役員の生徒が自発的に、朝のあいさつ活動を実施した。	(保護者対象) ① 学校は、高校生としての身だしなみについて指導している。 ② 学校は、あいさつや言葉遣いなど基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。 (生徒対象) ① 校則やルールを守って学校生活を送っている。 ② 交通ルールを守って登下校している。 ③ 北高生として身だしなみを整え、気持ちの良いあいさつができています。 ④ 清掃にまじめに取り組んでいる。 ⑤ 健康管理に努め、遅刻・欠席をしないよう努力している。 (教員対象) ① 全教職員が、一致協力して指導に当たるよう、組織的な生徒指導体制の確立に努めている。 ② 保護者と一致協力して、指導に当たるよう、日頃から保護者との信頼関係を深めるよう努めている。 ③ PTA や地域の関係機関と連携して、生徒の健全育成に努めている。 ④ 日頃から、規範意識や倫理観を育てるよう努めている。 ⑤ 校内外の巡視を定期的に行い、生徒の動向を把握している。 ⑥ 生徒の問題行動に対して、組織的に対応できる体制が整っている。 ⑦ 通学路の安全確保や交通安全教育に積極的に取り組んでいる。 ⑧ 日頃、身だしなみ・あいさつ・言葉遣い・マナーを身に付けさせるよう努めている。	4.1	4.1	○制服変更に伴い規定の見直しを行っている。高校生としての身だしなみやマナーについて、生徒自身の意識高揚を図るため全教職員があらゆる機会を通して指導にあたる。
		・ 皆勤率 65% A:65%以上 B:64～60% C:59～55% D:54～50% E:50%未満		○皆勤率（2 学期末現在） 1 年生 29.8% (27.7) 2 年生 27.0% (38.2) 3 年生 38.3% (40.0) 全体 32.0% (35.3) *（ ）：昨年度		4.0	3.9	
		・ 交通安全意識を高め、交通事故 0 件	A	○交通事故 0 件（1） *（ ）：昨年度 ○年 5 回、教員、生徒交通安全委員による街頭指導を実施した。 ○毎学期、車体検査及び施錠調査を実施した。 ○全校集会で、マナー向上の啓発活動を実施した。		4.6	4.5	○生徒会・委員会等が中心となって、あいさつ運動を継続的にを行い、生徒自らが自発的にあいさつできる環境作りに努める。
		・ ヘルメット着用率 100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%以下		○自転車通学生のヘルメット着用は定着した。		4.7	4.7	
						4.4	4.5	○生徒会・委員会等が中心となって、あいさつ運動を継続的にを行い、生徒自らが自発的にあいさつできる環境作りに努める。
						4.3	4.5	
						4.4	4.4	
						3.8	3.7	○規則正しい生活習慣を身に付けさせ家庭との連絡を密にし、生徒自身が意識を高められるよう支援する。
						3.9	4.0	
						4.1	4.1	
						4.0	4.0	○教員による街頭指導や交通安全委員や生徒会による交通安全啓発運動をさらに充実させ、交通事故 0 件を目指し、生徒が事故の加害者、被害者にならないよう啓発に努める。
						3.7	3.9	
						3.9	3.8	○車体検査や施錠率調査を継続することで、安全に対する意識を高める。
						4.0	4.0	
						4.0	4.0	○通学時以外でも着用するよう効果的な指導の継続を図る。
								○あご紐を正しく締めることなど着用方法も指導する。

※(1)評価は 5 段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）
 (2)アンケート結果の数値は 5 段階（5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R 5	R 6	次年度の改善方法
生徒指導	学校生活の充実	・生徒会・学校行事満足度 100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%以下	C	○満足度調査 鬼北歩行 90.5% (96.6) 野球応援 74.3% (75.7) 体育祭 92.3% (89.7) 文化祭 98.6% (98.6) * (): 昨年度	(保護者対象) ① 学校は、行事などで子どもが自主的に活動できるよう指導している。 ② 学校は、部活動の活性化に努めている。 ③ 子どもは、奉仕活動やボランティア活動に参加する機会がある。 (生徒対象) ① 生徒会行事に積極的に参加している。 ② 部活動に積極的に取り組んでいる。 ③ ホームルーム活動は、話し合いが活発で、クラスのまとまりを感じる。 ④ 学校行事は、積極的に参加できるように工夫されている。 ⑤ 奉仕活動やボランティア活動に参加する機会がある。	3.8 3.8 3.6	3.9 3.9 3.6	○生徒や地域の実態に即した学校行事の内容を検討し、効果的な指導の継続を図る。
		・部活動加入率 95%	B	○部活動加入率 運動部 60.6% (60.5) 文化部 30.3% (35.3) 全体 90.9% (95.8) * (): 昨年度	① 学年主任を中心に学年団として、指導内容・方法の工夫をしている。 ② ホームルーム活動では、生徒の活動意欲や創意工夫を引き出すよう努力している。 ③ ホームルーム活動では、集団や社会の一員として望ましい資質や能力を育てる活動になるよう工夫している。 ④ 生徒総会や各種委員会等を活性化するため、適切な指導・援助をしている。 ⑤ 学校や地域の特色を生かした行事を計画し、実施している。 ⑥ 上級生と下級生が協力して活動する機会を設けるなど、よりよい人間関係を育てるよう工夫している。 ⑦ 行事を通して、愛校心や学校への所属感を高め、よりよい校風の樹立に努めている。 ⑧ 生徒が主体的・意欲的に取り組めるよう努めている。 ⑨ 生徒の健康面や安全面に配慮している。	3.8 4.1 4.0 4.2 3.7	3.9 4.1 4.2 4.2 3.8	○中学校との合同練習等を行い、部活動の活性化に向けた取組を実践する。 ○運動部においては合同練習会（トレーニング・メンタル強化）等を実施し、意識を高める。
		・四国、全国大会出場を目指す	A	○県総体出場人数 66 人 (87 人) ○四国大会出場 13 人 (14 人) ○全国大会出場 6 人 (2 人) * (): 昨年度	① 学年主任を中心に学年団として、指導内容・方法の工夫をしている。 ② ホームルーム活動では、生徒の活動意欲や創意工夫を引き出すよう努力している。 ③ ホームルーム活動では、集団や社会の一員として望ましい資質や能力を育てる活動になるよう工夫している。 ④ 生徒総会や各種委員会等を活性化するため、適切な指導・援助をしている。 ⑤ 学校や地域の特色を生かした行事を計画し、実施している。 ⑥ 上級生と下級生が協力して活動する機会を設けるなど、よりよい人間関係を育てるよう工夫している。 ⑦ 行事を通して、愛校心や学校への所属感を高め、よりよい校風の樹立に努めている。 ⑧ 生徒が主体的・意欲的に取り組めるよう努めている。 ⑨ 生徒の健康面や安全面に配慮している。	4.0 4.0 4.1 4.0 4.2 4.0 4.0 4.0 4.1 4.1	4.1 4.0 4.1 4.1 4.2 4.0 4.1 4.1 4.1 4.1	○本校の現状に応じた部の精選を行い、各部の強化、充実を図る。 ○教職員の共通理解・共通実践を図るとともに、生徒が活動しやすい状況を構築し、能力を発揮できる部活動への入部率を高め、活性化を図る。

※(1)評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）
(2)アンケート結果の数値は5段階（5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R5	R6	次年度の改善方法
進路指導	進学指導の充実	・進学決定率 100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%	(C)	○進学決定率 93.9% 国公立大学 6名合格 私立大学 17名合格 私立短期大学 5名合格 専門学校 20名合格 (1月20日現在)	(保護者対象) ① 学校は、進路に関する必要な情報を提供してくれる。 ② 学校は、子どもや保護者の希望を踏まえて進路指導を行っている。 ③ 学校は、補習や模擬試験、各種検定を実施し、進路目標達成に必要な学力を身に付けさせている。 (生徒対象) ① 資格取得等に積極的に取り組んでいる。 ② ホームルーム活動などで、将来の進路や生き方について考える機会がある。 ③ 学校は、進路選択に必要な情報を適切に提供してくれる。 ④ 先生は、進路について親切に相談に応じてくれる。 ⑤ 進路目標達成のため、課外授業や個別指導が十分行われている。 (教員対象) ① 3年間を見通した、進路指導計画や目標を明確に示している。 ② 個人面談などを通して、生徒の進路希望の把握に努めている。 ③ 進路室や教室等に学年に応じた進路資料を配置し、生徒が活用しやすいよう工夫している。 ④ 進路説明会などを通して、生徒や保護者の進路に対する意識啓発に努めている。 ⑤ 生徒の進路意識を高めるため、勤労観・職業観の育成に努めている。 ⑥ 生徒一人一人の進路希望に応じた、指導体制が確立されている。	3.8 4.0 4.0	3.9 3.9 3.9	○キャリアパスポート『北辰キャリア』を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ○進学や就職に関する情報を生徒自身がSNSやHP等から収集し、進路選択の一助となるよう指導する。 ○「進路だより」の内容を再検討して、時期ごとに適切な進路情報を提供する。 ○「進路の手引き」の内容を検討し、進路学習に有効な資料となるように改善を図る。 ○「ホームルーム活動」、「総合的な探究の時間」及び「学習合宿」等を活用して、進路意識の高揚を図る。 ○大学見学や学校説明会や夢ナビを活用して、進学先の情報を収集し、進路探究をさせる。 ○進路資料室の資料の配置を改善して、より利用しやすい環境を作る。 ○2年生3学期には進路目標を持たせ、個別指導を徹底し、一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。
	就職指導の充実	・就職内定率 100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%	A	○就職内定率 100% 県内 14名 県外 17名 合格31名 ○一次試験での不合格者 3名 ○公務員 1名	③ 進路室や教室等に学年に応じた進路資料を配置し、生徒が活用しやすいよう工夫している。 ④ 進路説明会などを通して、生徒や保護者の進路に対する意識啓発に努めている。 ⑤ 生徒の進路意識を高めるため、勤労観・職業観の育成に努めている。 ⑥ 生徒一人一人の進路希望に応じた、指導体制が確立されている。	3.9 4.1 4.0 4.1 4.1 3.9	4.1 4.1 4.1 4.1 4.1 4.0	○キャリアパスポート『北辰キャリア』を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ○各学年に応じた望ましい勤労観と職業観を育み、自らの進路選択に必要な能力や態度を身に付けさせる。 ○鬼北町役場と連携して、地元企業合同説明会を1・2学年対象に実施する。 ○就職課外授業(3年生)の内容を充実させ、就職活動の基礎知識を身に付けさせる。

※(1)評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)
 (2)アンケート結果の数値は5段階 (5:よくできている 4:大体できている 3:どちらともいえない 2:あまりできていない 1:できていない)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R5	R6	次年度の改善方法
業務改善	適切な勤務時間	・校務支援システムの活用を推進し、教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。会議の精選等を行い、業務の効率化を推進する。	B	○会議や行事の精選により、業務の効率化を図ることができた。 ○勤務時間外の勤務時間が月 80 時間を超える教職員が毎月数名おり、さらに、業務の効率化を図る必要がある。 ○生徒の欠席について電話ではなく、スマートフォンアプリで保護者から連絡できるようにすることで、勤務時間外の電話対応が不要となった。	(教員対象)【再掲載】 ① 職員会議は、円滑に運営され、協議の内容が学校運営に生かされている。 ② 校務分掌は、効果的に組織され、有効に機能している。 ③ 教職員間は、コミュニケーションがよく図られ、連携協力ができている。 ④ 教職員は、サービスの厳正に努めている。	4.1	4.0	○勤務時間の管理を校務支援システムの活用により行う。また、適切な休憩時間の確保、業務の効率化、会議や行事の精選を行う。また、部活動や校務の効率化を図り、勤務時間外勤務の適正化を図る。
	職場環境の整備	・健康管理医による健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	○各種健康診断、ストレスチェック、学校医による衛生講話を行い、健康相談により、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図った。		3.7 3.8	3.9 3.9	○健康相談を定期的実施し、さらに、ストレスチェックやアンケートを通して、職場環境改善策を実施し、安心安全な職場づくりに尽力する。 ○環境を整え、報告・連絡・相談を徹底し、それぞれの業務内容を理解し、協力体制をとる。

※(1)評価は5段階 (A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)
 (2)アンケート結果の数値は5段階 (5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R 5	R 6	次年度の改善方法
人権 同和 教育 ・ 教育 相談	人権・同 和教育 の充実	・差別を無くす行動力を育てる 学習内容をさらに充実させるとともに、保護者・地域との連携を強化できるよう、教職員が共通の意識をもって取り組む。	B	○人権だよりは予定した 8 回の発行ができた。 ○ホームルーム活動の事前学習会を実施し、学年での意識統一ができた。 ○映画会やデート DV 出前講座など行事の実施ができなかった。 ○交流会など人権委員会の校外での活動が少人数にとどまり、広がりを作ることができなかった。	(保護者対象) ① 家庭で、子どもと人権について話し合うことがある。 ② 学校は、子どもの人権意識の高揚に努めている。 ③ 学校は、いじめの根絶に真剣に努めている。 ④ 学校は、子どもが悩んでいるとき適切に対応してくれる。 ⑤ 学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。 (生徒対象) ① 命の大切さや社会のルールについて、学ぶ機会がある ② 気軽に相談できる先生がいる。 ③ 学校は、いじめ等がなく安心して過ごすことができる ④ 学校生活を通して、人権意識が高まっている。 ⑤ 学校では、生徒の人権に配慮した指導が行われている。	3.4 3.7 3.7 3.7 3.7 4.3 4.0 4.4 4.2 4.2	3.5 3.7 3.7 3.8 3.8 4.4 4.1 4.5 4.3 4.3	○ホームルーム活動の事前学習会を充実させ、担任の先生の一助になるように努める。 ○年間行事計画に映画会やデート DV 出前講座を組み込み、命や人権の大切さについて学ぶ機会を増やす。 ○職員会議で出張報告を行い、学んだことを教職員に伝達し共有していく。 ○人権委員の校外での学びの機会を充実させ、人権集会等で全校生徒に広めていく。
	教育相談 の充実	・他者感覚の視点に立ち、教育相談の充実にも努め、生徒を中心としたメンタル面のケアに努める。	B	○年度途中から県のスクールソーシャルワーカーの方が定期的に来てくれるようになった。助言等がいただけるようになり、活動の輪が少し広がったように思う。 ○「悩みに関するアンケート」での悩みの記述が、昨年度との比較で、第 1 回目で 27%減、第 2 回目では 50%減、数値面では改善したが、進路変更を選択する生徒数を 0 にすることはできなかった。	(教員対象) ① 生徒同士や生徒と教師の、好ましい人間関係づくりに努めている。 ② 生徒が発するサインを見逃さず、必要に応じて関係教職員がチームを組み、適切な対応に努めている。 ③ 生徒一人一人が人権意識を持ち、差別解消を自分の問題として捉える指導に努めている。 ④ あらゆる教育活動において、生徒の人権に配慮した指導を行っている。 ⑤ 地域や関係機関、保護者との連携を図った活動を行っている。	4.0 3.9 4.2 4.1 4.0	4.0 3.9 4.2 4.2 4.1	○スクールライフアドバイザー及び保健室での対応を中心として、定期的にスクールソーシャルワーカーにも関わっていただき、より適切に物事へ対応するよう活動を進めていく。 ○「悩みに関するアンケート」を年 3 回実施し、生徒の悩みを拾い上げ、解決に導けるよう取り組んでいく。 ○進路変更を選択した生徒は 1 年生が多かった。次年度も 1 年生全員との個人面談を実施する。一つでも多くの問題が解決していくよう取り組んでいく。

※(1)評価は 5 段階 (A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)
(2)アンケート結果の数値は 5 段階 (5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R 5	R 6	次年度の改善方法
学校 警備 及び 非常 変災	安全・危機管理の 充実	・防災避難訓練等を通して、緊急時に的確な判断・行動できる生徒の育成を目指す。	B	○1学期に消防署指導の下、火災発生に対する防災対避訓練を行い、生徒の安全意識の高揚を図った。 ○2学期にシェイクアウトえひめを予告なしで実施した。また、消防署員による地震時の対応についての講話を行い、防災意識が向上した。	(保護者対象) ① 学校は、台風などの災害や事故の場合どのような行動をとればよいか具体的に示している。 ② 学校は、子どもの健康管理や学校での安全確保について適切に指導している。 ③ 学校の施設・設備はよく整備され、子どもが快適に学校生活が送れるようになっている。 (生徒対象) ① 教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。 ② 学校の施設・設備が壊れたときは、すぐに修理される。 ③ 学校で災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか具体的に知らされている。 (教員対象) ① 施設・設備は、適切に管理され、必要な補修がされている。 ② 特別教室・図書館・コンピュータ室は、授業等で活用しやすいよう管理・整備されている。 ③ 防災計画をはじめとする危機管理体制は、確立されている。 ④ 生徒の健康・安全に配慮した、教育活動が行われている。 ⑤ 毎日の健康観察により、生徒一人一人の心身の健康状態を把握した指導がなされている。 ⑥ 生徒の健康や安全管理を円滑に推進するため、保護者や関係機関との連携を密にし、適切な協力を得ている。 ⑦ 校内外において、事件・事故・自然災害等が発生したり、不審者等が侵入したりした場合の役割を認識している。 ⑧ 校内の環境が整備され、清掃が行き届いている。	3.8	3.9	○現時点だけでなく、いつどこで発生するか分からない災害等に対しても、最善で迅速な判断・行動がとれるよう、防災教育を行う。

※(1)評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）

(2)アンケート結果の数値は5段階（5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない）

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	学校評価アンケート結果	R5	R6	次年度の改善方法
その他	地域と連携した学習の推進	・小学校の連携学習や開放講座 35 回以上実施 - A:35 回以上 - B:30 回 - C:25 回 - D:20 回 - E:20 回未満 ・学校、行政、地域との更なる連携の強化	A	○今年度 24 回の連携学習、中学生体験入学（未来留学含む）、各種イベント参加、プロジェクト学習での外部交流などに参加した。9 月以降イベントが多く他の課外活動と重複することも多かったが、教員のマンパワーでクリアした。 ○外部講師の活用等では、様々な県の事業を活用して実施することができた。	(保護者対象) ① 学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。 ② 学校は、保護者や地域の方々と互いに連携・協力している。 ③ 学校行事等に、できるだけ出席している。 ④ 本校のホームページを見ている。 (生徒対象) ① 学校からの配布物を保護者に渡している。 ② 本校のホームページを見ている。 (教員対象) ① 家庭、地域社会、関係機関と連携・協力した教育活動をしている。 ② 学校の教育目標や経営方針は、保護者や地域の人に十分理解してもらうよう努めている。 ③ 本校のホームページ・Instagram の内容は適切である。	3.7 3.8 3.5 3.8	3.6 3.8 3.6 3.7	○休日・時間外のイベントは、時間外実習の枠で生徒は積極的に参加・活動してくれる。教員にはその枠組みがないため、担当者が同じ時間帯で活動する部活動や、時間外を犠牲にしている。ここ数年両立を図るために諸改善を講じたが解決には至っていない。
	保護者や地域との情報交換の推進	・PTA 総会の出席率及び委任状回収率 95%以上を目指す。	B	○PTA 総会の出席率及び委任状回収率は、93%であった。		4.1	4.1	○担任を通じて、積極的に保護者に呼びかけ、出席率及び委任状回収率 95%以上を目指す。
		・保護者懇談会の保護者出席率 100%を目指す。 - A:100% - B:95% - C:90% - D:85% - E:80%以下	B	○1 学期及び 2 学期に保護者懇談会を実施した。出席率 99.6%であった。 ○懇談日時を保護者の都合に合わせるなどして、出席を促した。		4.2	4.1	
						4.3	4.4	○懇談内容の工夫や保護者が参加しやすい日程や時程を整える。

※(1)評価は 5 段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）
 (2)アンケート結果の数値は 5 段階（5：よくできている 4：大体できている 3：どちらともいえない 2：あまりできていない 1：できていない）